

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3671800427
法人名	医療法人 一樹会
事業所名	グループホーム サンファミリー
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原1354番地の2 (電 話) 0883-53-2332
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 9日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤 14人,非常勤 1人,常勤換算 東ユニット7人、西ユニット7.5人	

(2)建物概要

建物構造	木 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79.7 歳	最低 65 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 一樹会 佐藤内科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道に面した病院や老人保健施設、住宅が立ち並ぶ一角にある。裏側にはホームの農園や運動のできる広場があり、自然や地域住民と親しめる環境の中に位置している。利用者一人ひとりが思いのままの生活を営み、職員は明るく温かく見守り一緒に生活されていた。またホーム内に事故防止対策委員会と感染症対策委員会を設けて指針も立て、委員長を中心に内部研修、外部研修を頻繁に実施し、必要な箇所にわかりやすい手順や重要事項が明示されていた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目②	市役所介護保険担当者、地区民生委員、婦人会々長、老人会々長、利用者、家族などの参加で会議が進められていた。グループホームの状況や役割、外部評価の結果の報告、自己評価の説明などを行い、家族からの意見などあわせ地域との関係づくりなどについての話し合いがなされていた。会議は3ヶ月に1回開催されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目③	意見箱を設置されているが、訪問時にゆっくり関わり、家族の意見や苦情、不安など何でも話し合う環境をつくり、日常の生活に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や隣の老人保健施設の行事に参加するなどしている。また利用者の顔なじみの方が立ち寄ってくれたり、農園作業をしているとき話しかけてくれたり苗を頂くなど、少しずつ地域との連携もできている。パンフレットや広報紙を配布し、地域の活動に職員が参加するなど理解を深める努力がされている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、職員みんなで意見を出し合い利用者が、地域の中でその人らしく安心と安全な暮らしの継続ができるよう、地域との連携を掲げ独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングや申し送りで確認しあい、職員各自で暗記できるまで復唱するなどして、管理者と共に意識してケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩のとき挨拶を交わしたり、農園の作業のとき、話しかけられたり、苗をいただいたり、利用者が作成した紙芝居を、高齢者のいきいきサロンで発表させてもらう等している。しかし、自治会や地域の活動には、日常的な交流が少ない。	○	自治会や地域の活動など、また日頃のグループホームの生活の中で利用者が、地域の住民として日常的に双方向の交流ができるような取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し職員と共に再学習を行い、自己評価、外部評価を日頃のサービスや取り組みの見直しの機会と捉えている。全職員が個々に自己評価を行った後、全職員でミーティングを重ね取り組みにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されており、自己評価の取り組みや外部評価の結果の報告をしたり、家族の意見などを中心にまた地域との関係づくりについての会議が進められていた。しかし、地域の一員である住民としての取り組みや交流についての意見交換などが少ない。	○	2ヶ月に1回開催されたい。また、利用者が地域住民の一員として暮らすために、運営推進会議への参加者などの工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、機会あるごとに市の担当課へ出かけて行きグループホームの状況や課題を報告し、相談や助言を受けており、連携されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時には個別記録を見てもらい、ゆっくりと状況などを話している。訪問されにくい家族には手紙や電話で報告をしている。ホーム便りも状況がわかりやすいように写真を多くするなどし、定期的に発行している。金銭管理は毎月確認印をもらい、こられない家族にはコピーをとり、郵送して確認印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や意見申立ての書面も作られているが、活用されたことがほとんどない。普段から何でも話せる環境づくりに努めているが、家族が外部の人に話せる公的機関の説明や表示が不十分である。	○	外部の人への相談ができる公的機関などについて家族に伝える工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理事長、管理者共に利用者との関係をよく把握しており、職員の職場定着も重視し、グループホーム内での変更も必要最小限に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を持ち順次、研修を実施している。法人内では感染症防止委員会、事故防止委員会を設置し、委員長を中心に、外部で研修してきたこと、ホーム内でヒヤリハットしたこと、保健所からの情報などをすぐに報告し、職員全員に伝わる仕組みも作られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、研修会にも参加しているが、情報を得たり話をする程度で具体的な交流までには至っていない。	○	他の事業所との職員交換研修や意見交換など積極的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の話があると、本人や家族とよく話し合い自宅を訪問したり、前もって見学をしてもらうなど、家族に協力を得ながら馴染む工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人としての尊敬の気持ちを持ち、昔のことを教えてもらったり、経験したことを話してもらうなど、いつも近くで寄り添うことを心がけている。表現の少ない人には、身体に触れて話すなどし、利用者に合わせて和やかに共に暮らせる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がこれまで歩んできた生活歴や希望、思いを細かく家族や本人から聞き取り、図式化し一人ひとりの思いや意向の把握に努めていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始の際細かく聞き取りしたシートを基に、関係者で立案しスタッフで検討を重ね、家族や本人に説明し意見を聞き作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをされており、利用者の状況の変化により必要なときは、関係者で話し合い家族にも相談して見直し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要に応じた対応をしており、できる限り要望に沿うよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期健診は主治医である法人病院で実施しているが、本人の馴染みの病院、家族の希望など関係病院と連携を持ち必要な医療が受けられるよう支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、本人や家族の意向を聞き、主治医などとも相談の上、十分な受け入れ態勢を準備し、家族や本人の気持ちを支援するように意思統一がなされていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーについては、日々の生活の中においても言葉遣いや、声かけ、対応など和やかに接している。日々のミーティングなどで繰り返し意識の向上も図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな生活リズムは決まっているが、絵を書く人、話をする人、テレビを見る人、部屋で過ごす人と自分の思うままに生活していた。何もしないで過ごす人のそばには、職員が寄り添いながら業務をしており、一人ひとりの生活ペースを大切にしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの農園で一緒に育てた野菜をおやつや食材に使用されている。また、下準備から配善、片付けなどその人可以できることをしている。職員、利用者は同じ食事を一緒に食べており楽しく時間を過ごしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの思いを重視し、安全を確保した上で、できることは自分でしてもらいながら、その人に応じた支援を行い楽しく入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食卓を拭く人、食器を洗う人、俳句を作る人、お習字や絵画をする人、紙芝居を作成して高齢者サロンで発表させてもらうなど、多くのその人の楽しみごとを支援されていた。自分の部屋の掃除も自分で楽しみとしてやっており励まし支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自分でお小遣いを持っておりよく買い物に出かけたり、日々の散歩、周辺の草花の水遣り、農園の手入れなど利用者の希望にそって、戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関側は、比較的車の往来の多い公道に面しており、すぐ外に出たがる人が居たり、過去に道路に出て車を止めたこともあり、危険回避のため施錠をしていた。横側や裏側の出入り口は自由に出入りができるよう開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を受けながら、避難訓練や、消火器の使い方や、夜勤者のみの場合を設定しての訓練など実施していた。事故防止委員会を中心に、火災や地震災害についてだけでなく、起こりやすい事故やヒヤリハットしたことなどについても繰り返し体験学習と実践がなされていた。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	○	一番身近な自治会などとも連携をもち、日頃からグループホームを理解してもらい、協力が得られるよう工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所内に栄養士が勤務しており、利用者の状況を把握し栄養のバランス、献立の工夫など利用者が楽しめる食事の支援がされていた。一人ひとりの食事や水分の摂取量など毎日健康記録表の中にわかりやすく記録がされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周辺、居間など、いろいろな所に切花や鉢植えの花があり、壁には利用者が書いた絵や習字や俳句、手作りカレンダーや行事の写真が張られていた。また、利用者同士で話したり、一人でもゆったりとくつろげる空間づくりがされていた。どのソファにも手編みのカバーがかけられ、温かさが感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや馴染みの物を置いたり、写真や好みのものを飾るなどして、本人が居心地よく過ごせるように家族と共に支援がされていた。		